

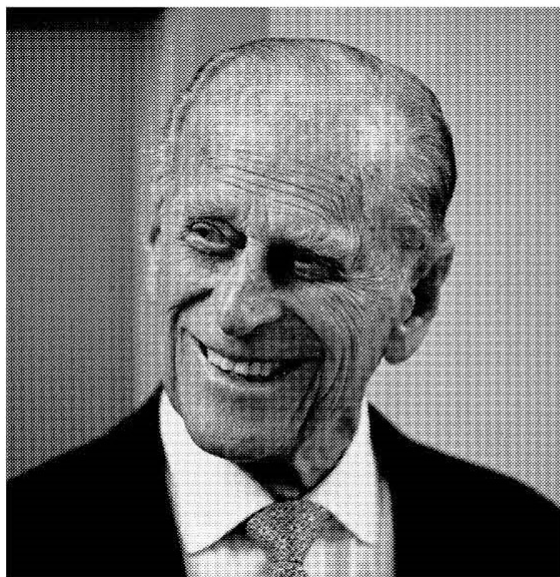


この連載は「ニッポン臨終図巻」ですが、今週は日本人にもフアンが多かった、この方について書きます。エリザベス女王の夫であるエディンバラ公フィリップ殿下が4月9日、ロンドン郊外のウインザー城で亡くなりました。享年99。

フィリップ殿下は2月中旬に体調不良を訴え、大事を取ってロンドン市内の病院に入院。その後、心臓の手術を受けたそうです。3月16日には無事退院し、ウインザー城に戻りました。感染症の疑いとの報道もあったようですが、エリザベス女王とともに、1月にコロナワクチンも接種されており、コロナではないとのこと。

殿下は心臓の既往症があり、2011年にはステント治療を受けていたそうです。死因は明らかになっていませんが、持病の心

202 フィリップ殿下



運転免許の自主返納 人工股関節置換手術

長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

然バタツと逝くようなイメージを持たれる人もいます。しかし、そんなワケがありません。平均寿命を超えて生きるということ、何かしらの病気や不自由と共存していくということなのです。フィリップ殿下は高齢になってもからも精力的に活動をされましたが、90歳頃からは入退院を繰り返していました。

故を起して運転免許を自主返納しました。人工股関節置換手術とか、免許の自主返納とか、普通の高齢者と変わらぬエピソードになんとか親しみが湧いてきます。日本の皇室も、英王室もそうですが、体調や結婚問題までプライベートな事柄を報道されるのは、ご本人にすれば甚だ理不尽でしょう。しかし、その人間的なエピソードに触れることで国民は「我々と同じなのだ」と、良い時代も悪い時代も共に生きていく感覚があります。こうした開かれた王室を再現させたのもフィリップ殿下の尽力によるものだったとか。

以前訪日の際には「徹子の部屋」にも出演されたというから驚きです。

「国民の祖父」とまで呼ばれた殿下の葬儀は国葬とせず、コロナ禍を配慮し参列者を30人に限定。かつて、エリザベス女王と結婚式を挙げたウェストミンスター寺院でしめやかに行われました。「献花のかわりに慈善団体に寄付を」という王室の声明に、心を打たれました。

普通の高齢者と同じエピソードに親しみ